

# 安積疎水関連施設 (2002年 土木学会選奨土木遺産)

明治政府が建設した3大疎水の1つとして、猪苗代湖の水を奥羽山脈を越えて安積原野開拓用に導水したもので、現在の郡山市発展の原動力となった事業である。そのシンボリックな構造物である十六橋水門をはじめ一部当時の姿を残す疎水水路や発電所施設は貴重な近代土木遺産。



十六橋水門: 公道橋を兼ねた石造りの水門



丸守発電所: 煉瓦建屋(切妻屋根)



沼上発電所水路



疎水水路	福島県郡山市・猪苗代町	明治15年竣工
沼上発電所余水路	福島県郡山市	明治15年竣工
十六橋水門	福島県河東町・猪苗代町	大正3年竣工
丸守発電所	福島県郡山市	大正10年竣工